

石黒敏明先生のご退職に寄せて

相原昌彦

石黒先生と私

石黒先生が神奈川大学を退職される。何年前からかその日が近いことを存じ上げておりましたが、見た目も心もお若い先生ですので、退職を目前に迎えた今も、先生が英語英文学科を去られる事がイメージできていません。来年の新学期も、大学へ出勤したら早朝からワイシャツに腕まくりをした石黒先生が廊下を行ったり来たりされているのではないかという気がしてならないのです。

私が初めて石黒先生にお目にかかった日のことは、今でも昨日のこのように覚えています。何しろそれは、私が英語英文学科の新任人事の最終候補に残り、呼んで頂いた面接の場でのことだったからです。面接の前日にアメリカから帰国し、十分な準備もする余裕も無くその場に臨んだ私は、学部学生への「英語学概論」の授業を想定した5分程度の英語での模擬授業に大失敗してしまいました（少なくとも私はそう感じていました）。冷や汗が流れ、口から出てくる英語もしどろもどろ、神奈川大学で仕事をさせてもらうことは無さそうだなと、意気消沈する私に、石黒先生は「大変良い模擬授業でした。準備した資料も分かりやすいですよ。」と、おそらく無理矢理なんとか良いところを見つけて励ましてくださったのだと思います。そのおかげで、模擬授業以降の質疑応答には落ち着いて臨めたことを記憶しています。

私自身が感じたように、石黒先生は学生に対しても、個々人の良いところを見つけ、励まし、伸ばすということを実践されてきた先生だと思います。言語習得を専門とされ、学生の語学力を伸ばす方法の一つではないと身をもって実感され、また、学科の誰よりも流暢な英語を操る石黒先生だからこそその学生への接し方は、英語英文学科の同僚、また将来同僚になるかもしれない当時の私に対しても向けられたのだと思います。石黒先生のお人柄を一言で表すと「接する相手を元気にする人」であると思います。

何とか神奈川大学英語英文学科の一員となった私は、以来、石黒先生と

は、学科の同僚としてお付き合いをさせて頂くこととなりました。英語英文学科における三十年を超える先生の勤務歴の中で、私が同僚として拝見してきたお仕事ぶりは、その中のほんの一部だけとなってしまいますが、以下に二つ紹介させて頂き、石黒先生のお仕事がどの様な影響を学科に残したかを知って頂ければと思います。

石黒先生と英語英文学科

まず石黒先生が英語英文学科のために特にご尽力なされてきたお仕事に、外国語学部「文化ウィーク」イベントである英語スピーチコンテスト、及び、英語劇の上演の責任者としてのお仕事が挙げられるかと思います。かつて「英語フェスタ」と呼ばれた時代から、「文化ウィーク」は英語英文学科に学ぶ学生が、授業外で英語に触れ、英語の力を試す、学科にとって非常に重要なイベントです。しかしながら、このイベントに学生を参加させることはなかなか骨の折れる仕事でした。石黒先生はこのイベントへの参加者を増やし、学科の看板とするべく、毎年のように英語劇の上演のために、時には英国から劇団を迎え、時には演劇を指導できる常勤や非常勤の先生と協力をし、学生達に英語劇に触れる機会を提供してきました。

スピーチコンテストについては、運営の責任者として、学外の審査員を探し、イベント運営学生を取りまとめ、スピーカーのスピーチ指導までお勤めになりました。また、責任者をなさらないときも、コンテストが成功するよう、様々な助言、協力を、年ごとの責任者になさってくださいました。今では、このスピーチコンテストも学科の看板イベントとして定着し、参加するスピーカーのレベルも上がっています。今年度については、コンテスト審査時間に学生による英語劇も行われる事となっており、今後ともこのイベントは英語英文学科の看板であり続けると思います。

次に、国際交流、特に語学研修、海外企業研修先の開拓と実施のお仕事も挙げられます。石黒先生は、まだ英語英文学科からの海外留学生が少なかった時代から、なるべく多くの学生に在学中の海外経験をさせたい、と積極的に学生の海外語学研修や企業研修への引率をご担当下さいました。カリフォルニア大学デービス校への海外語学研修、シンガポールへの日本企業見学についての経験談は、私が存じ上げないところではありますが、ハワイへの現地企業見学については、石黒先生、及び多くの参加者の学生から様々な体験談を伺いました。特にハワイ現地の旅行社や、ラジオ局で

の経験は、海外で働くことを目標とする学生にとって、貴重な経験となった事と思います。石黒先生の豊富な国際交流の経験に基づくご助言は、後に英語英文学科で開講することとなった SEA (Study English Abroad) プログラムや、更なる海外留学プログラムの開発に活かされ、今後ますます沢山の学生に留学経験の機会を与える為の大きな力となると確信しています。

結びに代えて

石黒先生、先生が英語英文学科に残してくださった数々の言葉は、先生が我々にそうしてくださったように、これから学科の仲間となる先生方に伝えていくことが出来ればと思います。英語英文学科は2020年度より新しい外国語学部の中で大きく生まれ変わります。ご退職なさっても、折に触れ英語英文学科のことを気に掛けて頂き、我々の話し相手になってくださったら幸いです。長い間本当にお世話になりました。ありがとうございました。